国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

がんばろう！東北

平成３０年３月２９日
東北地方整備局 港湾空港部

東日本大震災で被災した国有港湾施設の全てが復旧完了しました。

東日本大震災で被災した国有港湾施設の災害復旧が、３月２７日(火)の「釜石港湾口防波堤」の復旧をもって、全て完了しましたのでお知らせします。

東北太平洋沖地震・津波により、甚大な被害を受けた東北太平洋沿岸の港湾では、復旧の必要性、復旧時期などを関係者で策定した「東北港湾の復旧・復興基本方針」に基づき、関係行政機関や関係民間事業者、港湾工事関係者等の協力を得ながら、災害復旧事業や復興事業等を強力に推進し、東北の復興に向け全力で取り組んで参りました。【別紙-1】

主要な岸壁及び防波堤は平成 25 年度末までに完成し、残る３つの防波堤のうち 29 年３月には大船渡港湾口防波堤が完成、30 年３月 15 日には相馬港沖防波堤の復旧が完了しております。残る釜石港湾口防波堤についても、３月２７日(火)に復旧が完了し、これにより東日本大震災で被災した全ての国有港湾施設の復旧が完了しました。【別紙-2,3】

港湾施設の復旧や背後企業の操業再開、周辺地域の復旧・復興工事の進捗、新たな企業の立地等により、港湾利用も順次増加し、平成 29 年の東北全体の港湾コンテナ取扱貨物量は過去最高を更新しております。取扱貨物量の増加に対応し、航路便数の増加に加え新規航路も開設されています。【別紙-4,5】

港湾施設の復旧・復興に加え、復興道路・復興支援道路など高規格道路の整備も進捗していることから、港湾周辺で物流倉庫や工場、発電所などの企業立地が進んでおり、社会資本の総合的な整備によるストック効果が現れ始めております。【別紙-6,7】

また、東日本大震災では日本海側港湾がバックアップ機能を果たしたことを踏まえ、太平洋側港湾と日本海側港湾の２軸をフル活用する安全・安心な東北地域づくりの港湾整備を実施しております。

東北地方整備局港湾空港部では当部ホームページ内の特設サイトにおいては、これら災害復旧事業の概要や効果等について情報発信しているとともに、管内の港湾関係事務所ホームページにおいても、様々な復旧・復興の取組みを紹介しております。是非、下記 URL のリンクよりご覧下さい。

■東北地方整備局港湾空港部ホームページ
特設サイト【東北の港湾の復旧・復興状況～復興最前線～】
http://www.pa.thr.mlit.go.jp/kakyoin/disaster/index.html



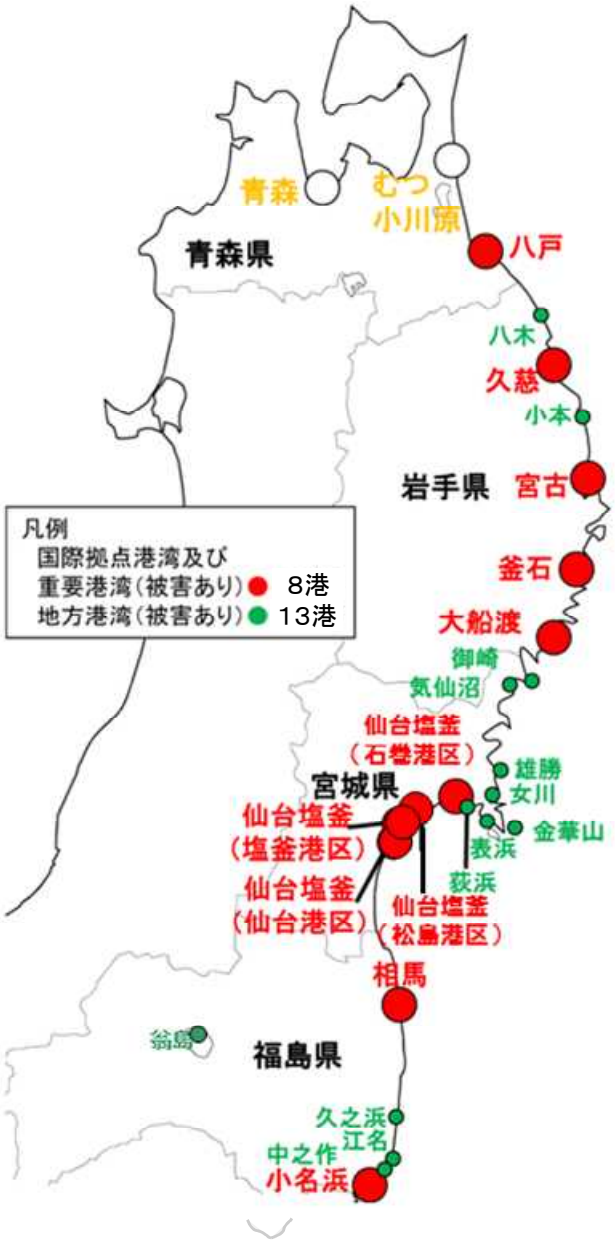
【発表記者会】
宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

【問い合わせ先】
国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部
港湾空港企画官：牧野　武人、　港湾事業企画課長：神原　晋
電話：０２２－７１６－００１０（直通）

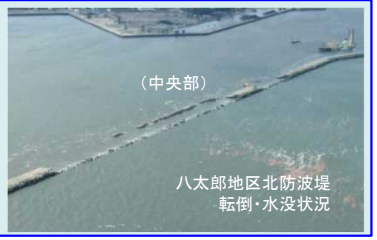
【別紙-1】 東日本大震災直後における港湾施設の被災状況

国土交通省

○東北太平洋沖地震・津波の地震動及び津波により、東北太平洋側の港湾施設が大きく被災し、一時は港湾機能が全て麻痺しました



【八戸港】
・防波堤転倒
・航路埋没
・護岸ケーソン倒壊
等



【久慈港】
・波除堤上部コンクリート損壊
・臨港道路損傷
・護岸倒壊
等



【宮古港】
・防波堤損壊
・港内障害物（丸太・養殖関連施設）
・岸壁エプロン陥没
等



【釜石港】
・湾口防波堤倒壊
・岸壁はらみ出し
・臨港道路表層アスファルトめくれ
等



【大船渡港】
・湾口防波堤倒壊
・岸壁上部コンクリート隆起
・岸壁荷捌き地沈下
等



【仙台塩釜港（石巻港区）】
・岸壁エプロン沈下
・臨港道路法肩部崩壊・流出
・穀物岸壁（民有）倒壊
等



【仙台塩釜港（塩釜港区）】
・岸壁はらみ出し
・岸壁エプロン陥没
・港内障害物（自動車・養殖関連施設）
等



【仙台塩釜港（仙台港区）】
・コンテナ散乱
・岸壁エプロン沈下
・港内障害物（コンテナ・自動車）
等



【相馬港】
・防波堤倒壊
・岸壁倒壊・エプロン陥没
・多目的クレーン倒壊
等



【小名浜港】
・岸壁はらみ出し・エプロン陥没
・ガントリークレーン損壊
・港内障害物（自動車）
等



【別紙－2】相馬港　沖防波堤の復旧

国土交通省

○津波及び地震動により防波堤をはじめ岸壁やクレーンなど港湾施設が大きく被災。平成25年度末までに沖防波堤を除く主要施設は復旧済。
○静穏度向上のための応急対策として、消波ブロックを積上げた仮消波堤を防波堤前面に設置。
○沖防波堤は、平成28年3月末迄にケーソンは全て設置済みで静穏度は確保。平成30年3月15日に復旧完了。

震災前（H22年3月）



震災後（H23年9月）



岸壁が倒壊・エプロン陥没



臨港道路に瓦礫が散乱



クレーンが倒壊



相馬共同火力発電所は
平成23年12月19日まで運転停止



ケーソン製作



被災ケーソンの再利用

H30年3月



【別紙-3】釜石港　湾口防波堤の復旧状況

国土交通省

○津波により湾口防波堤などの港湾施設が大きく被災。これまでに湾口防波堤を除く施設は復旧済。
○平成29年11月のケーソンの最終函据付により港内静穏度は確保、防波堤本体の災害復旧工事は平成30年3月27日完了。





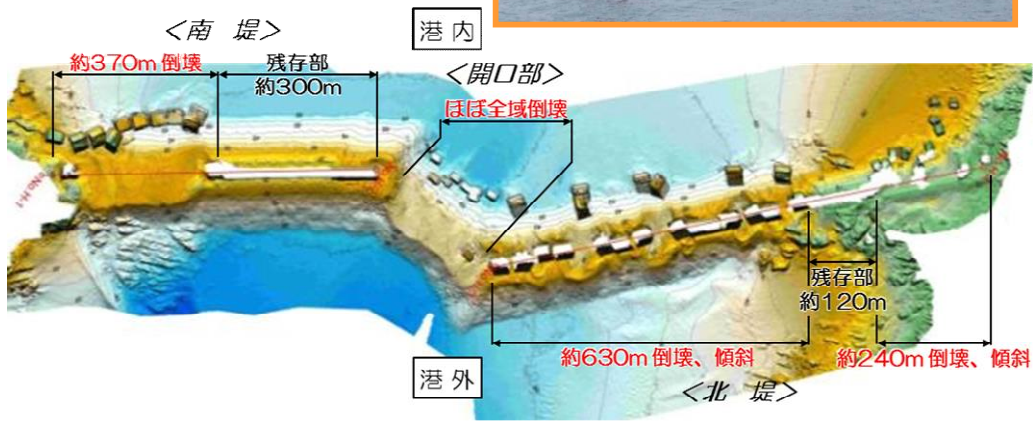












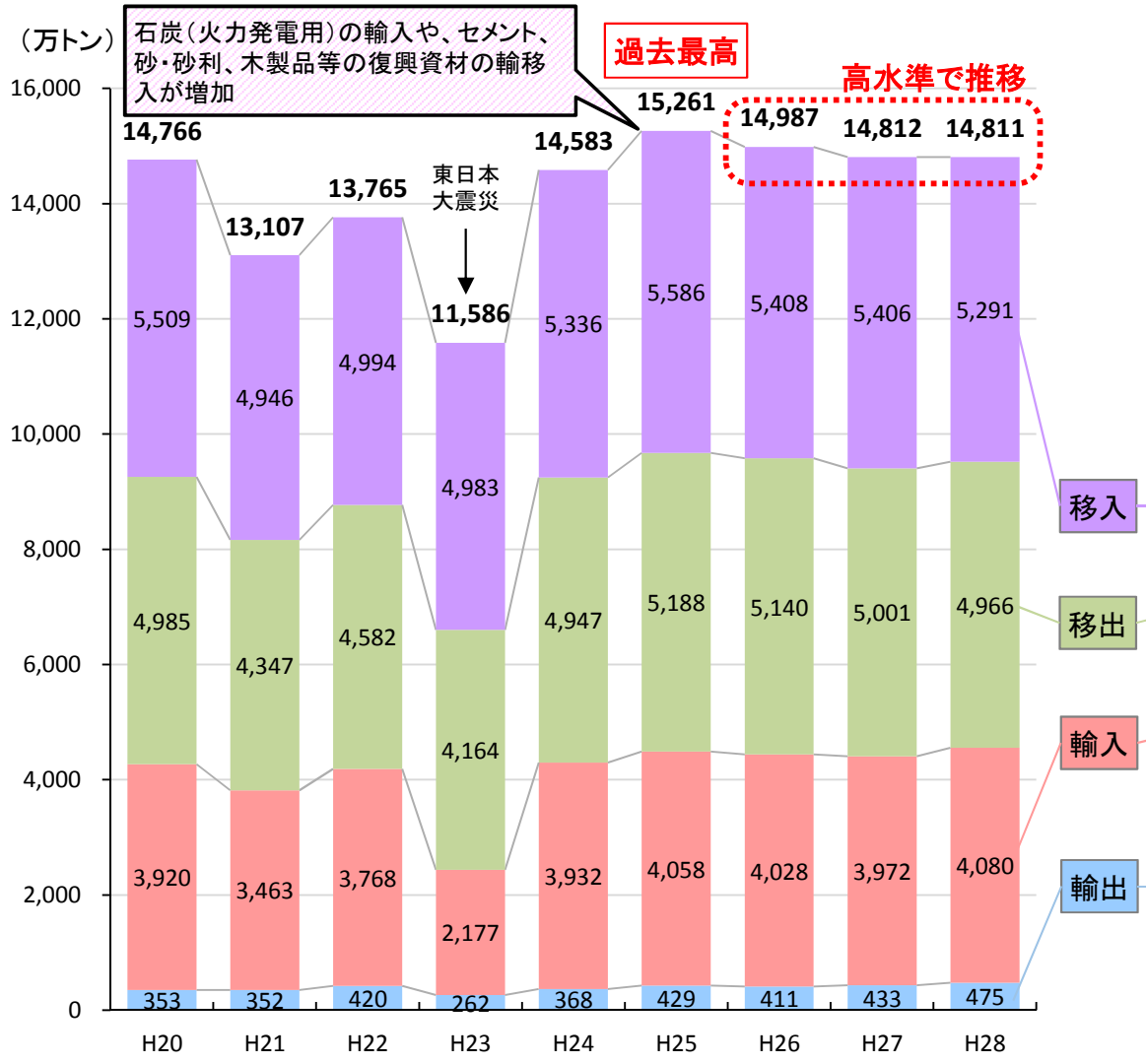
震災直後の湾口防波堤ナローマルチビーム測量結果
（面的に海底を測量した結果）

【別紙-4】東北管内の港湾取扱貨物量の回復状況

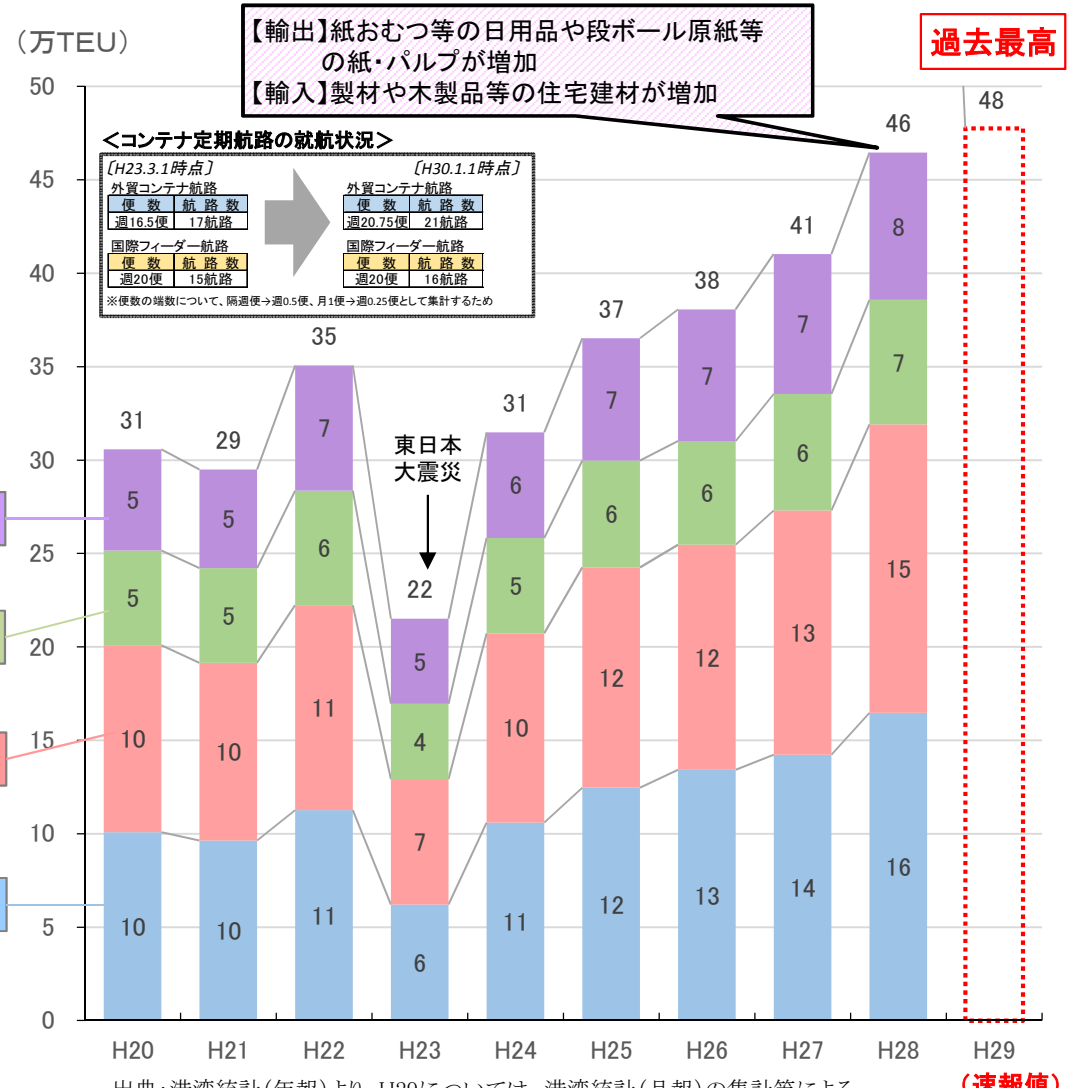
国土交通省

○東北管内港湾の総取扱貨物量は、東日本大震災の影響により平成23年は大きく減少したが、港湾施設の復旧に伴い、震災前よりも高い水準で推移。
○コンテナ取扱貨物量は、平成28年には仙台塩釜港、八戸港、秋田港、酒田港、小名浜港で過去最高を記録し、平成29年速報値で管内全体としても約48万TEUと過去最高を更新。

総取扱貨物量の推移 ※地方港湾を含む全取扱貨物量



コンテナ取扱貨物量の推移



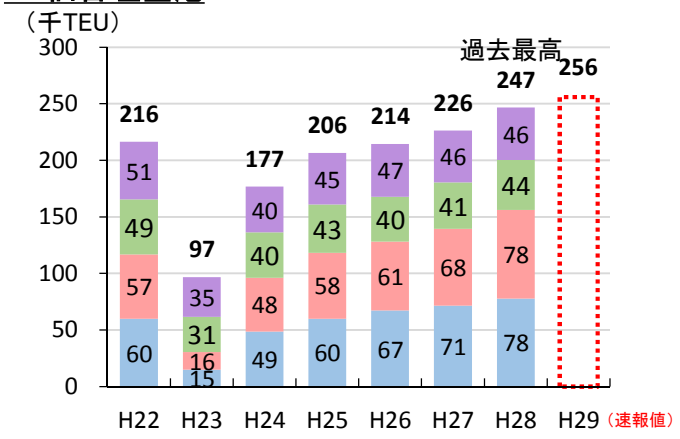
出典：港湾統計（年報）より。H29については、港湾統計（月報）の集計等による。

【別紙-5】東北各港のコンテナ取扱貨物量の回復状況

国土交通省

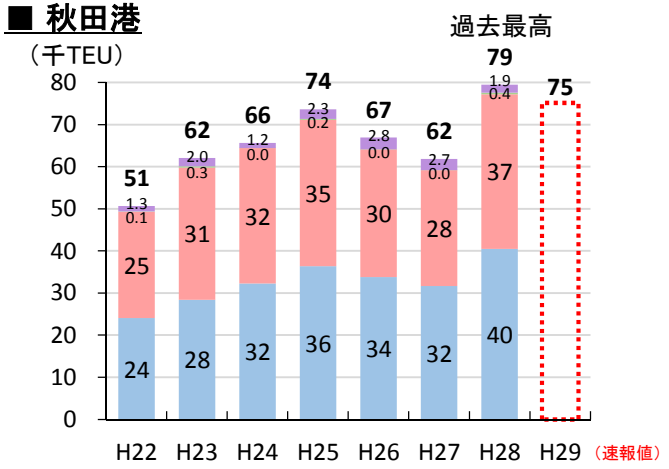
凡例　移入　移出　輸入　輸出

■ 仙台塩釜港



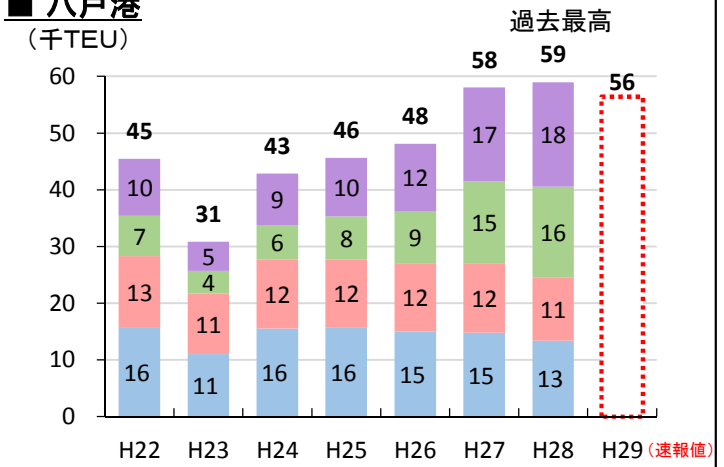
○輸出は、タイヤ製品や紙・パルプ製品、水産品が増加。
○輸入は、ホームセンター向け日用雑貨が増加。

■ 秋田港



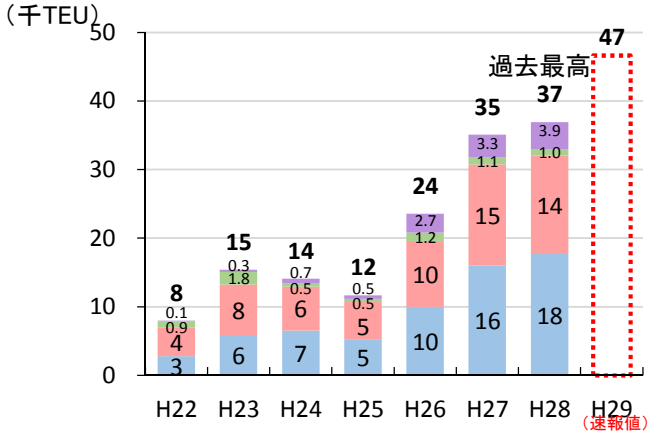
○輸出は、クラフトライナー（段ボール原紙）が増加のほか、亜鉛のインゴットが増加。
○輸入は、製材、木製品が多く、昨年の水準を保っている。

■ 八戸港



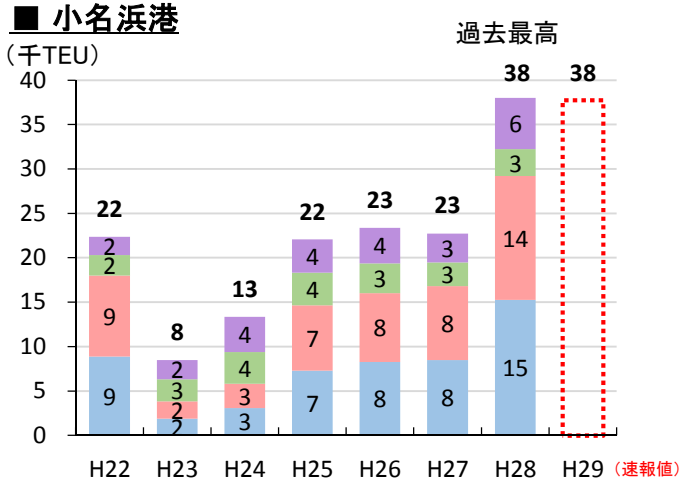
○輸出は、産業用精密機器や紙製品が増加。一方、不漁の影響で冷凍の水産品は減少。
○輸入は、バイオマス発電用燃料や風力発電関連の資材及び食品加工用水産品が増加。

■ 酒田港



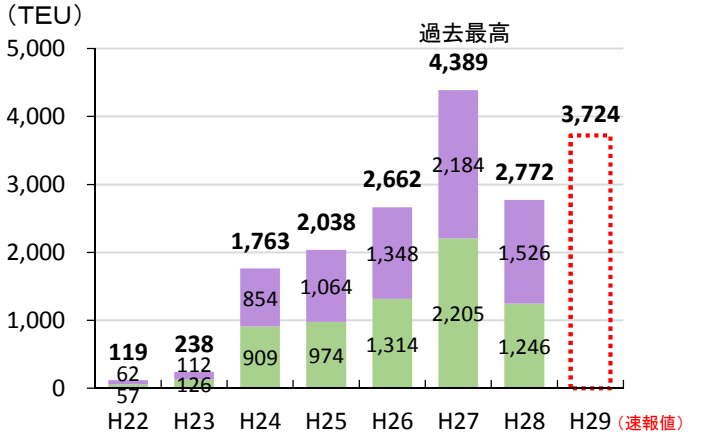
○輸出は、紙おむつ工場の増設により、紙おむつが増加。
○輸入は、その他繊維工業品（不織布）が最も多く、次いで紙おむつの原料となる紙・パルプが多い。

■ 小名浜港



○輸移出は、その他日用品、ゴム製品が大きく増加。
○輸移入は、製材が増加、木製品は減少。

■ 釜石港



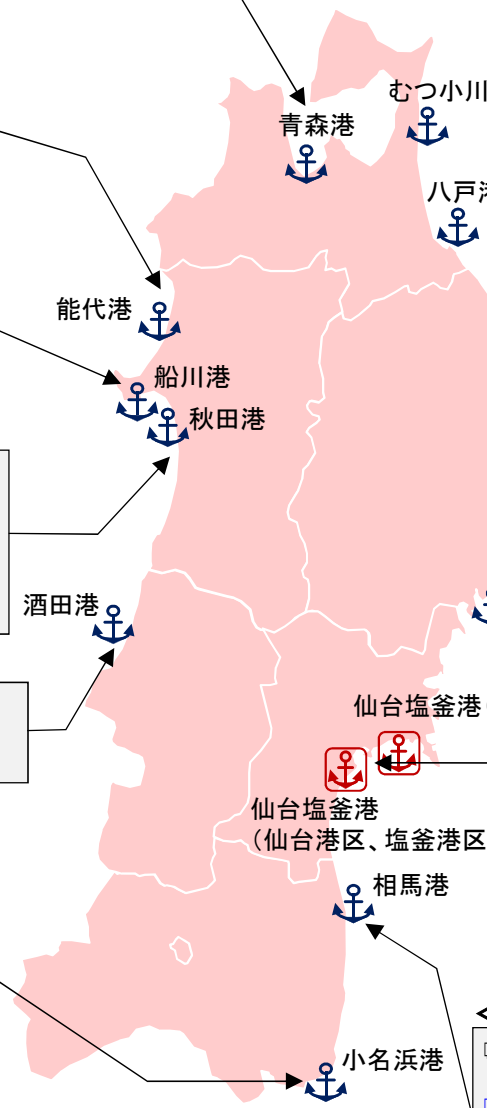
○移出は、線材（線状に細長く圧延された鋼材）や冷凍魚、紙・パルプが増加。
○移入は、自動車部品や畜産業向けの牧草などが増加。

出典：港湾統計（年報）より。H29については、港湾統計（月報）の集計等による。

【別紙-6】港湾及び周辺における最近の企業立地状況（エネルギー関連除く）

国土交通省

平成30年3月現在



＜青森港＞

❑日本通運㈱ 融雪剤製造用倉庫兼工場
・青森市油川に倉庫兼工場を建設、H29.1操業開始。
原料塩を輸入、製品化して北海道や北東北に供給。

＜八戸港＞

❑北日本造船㈱　豊洲工場
・ｹﾐｶﾙﾀﾝｶｰの受注増などを受け、ﾎﾟｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞに新たな工場を建設、H28.7から本格稼働。

❑㈱上組　八戸定温物流センター
・東北における食品貨物の取扱拡大を見込み、豊洲地区に低温・薫蒸機能を備えた物流センターを建設、H29.3から操業開始。

❑八戸臨港倉庫㈱＆全農物流㈱　八戸低温薫蒸倉庫
・配合飼料コンビナートや岸壁に近いなどの理由から、河原木地区へ輸入米や飼料米の保管、荷役などを行う物流倉庫を建設、H29.9竣工。

＜能代港＞

❑㈱日立パワーソリューションズ
・青森、秋田、山形の風力発電設備のメンテナンス拠点及び保守作業員の研修等に使用される能代サービスセンター・能代トレーニングをH29.1開設。

❑能代FRC有限責任事業組合
・石炭灰を利用したFRC（ﾌﾗｲｱｯｼｭ・ﾘｻｲｸﾙ・ｺﾝｸﾘｰﾄ）を製造するリサイクルセンターを建設、H27.10稼働。

＜久慈港＞

❑北日本造船㈱　久慈工場
・H23年、津波リスク対応型の第2内業工場及び第5・第6研掃工場を新設。
・H27年、第7・第8研掃工場をさらに増設。

＜船川港＞

❑秋田プライウッド㈱　男鹿工場
・原木から合板まで一貫して製造できるよう工場を増設、H21.10本格稼働。

＜釜石港＞

❑日本通運㈱
・岩手県沿岸地域の物流拠点として物流倉庫を建設、H28.7操業開始。
・国際物流営業強化のため、保税倉庫指定及び通関営業をH29.9より開始。

❑エアウォーター食品物流㈱
・釜石地区の水産品等物流強化のため、低温倉庫を建設、H26.9操業開始。
・水産品等の輸出促進のため、保税倉庫指定を受けH29.8より操業開始。

❑福山通運㈱
・釜石地域の輸送網構築のため、物流倉庫を建設、H28.3操業開始。

＜秋田港＞

❑秋田プライウッド㈱　向浜工場
・H29.3、向浜第2工場で、最新設備を導入し、合板生産能力を増強。

❑TDK㈱
・由利本荘市とにかほ市それぞれにスマートフォンや自動車向け電子部品を製造する新工場を建設、H28.10完成。

＜酒田港＞

❑花王㈱　酒田工場
・酒田工場では、H26.4より紙おむつ工場を新設し、H27.8に拡張、さらにH28.11、隣接する敷地内に新たな工場を増設。

＜仙台塩釜港＞

❑大和ハウス工業㈱　DPL仙台港
・宮城野区の仙台港区近くに東北最大級のﾏﾙﾁﾃﾅﾝﾄ物流ｾﾝﾀｰを開設、H29.3完成。

❑センコー㈱　仙台港PDセンター
・仙台港IC近くに、緊急避難施設としての機能も有する物流倉庫を建設
H27.10完成。

＜小名浜港＞

❑㈱日本産業（一条工務店グループ）　小名浜物流センター
・福島県内における住宅建材の物流拠点として、大剣ふ頭に物流倉庫を建設、H28.7操業を開始。

❑エリエールプロダクト㈱いわき工場
・いわき市南台に紙おむつ等の生理用品を製造する工場を建設、H27.12から順次稼働を開始。

❑㈱ドーム
・スポーツ用品の配送拠点として、いわき市にDIB（ドームいわきベース）を建設、H28.5より操業開始。

＜相馬港＞

❑JAパールライン福島㈱　相馬港米低温倉庫
・3号ふ頭に米保管用の低温倉庫を建設、H29.4より操業開始。

❑㈱アイ・テック　鋼材加工工場
・1号ふ頭背後へ東北や北陸などへの鋼材出荷拠点となる鋼材加工工場を建設。
H29.5.15着工、H30春稼働予定。

❑㈱タケエイ
・廃棄物処理・リサイクル業を主力とする企業であり、東北の拠点工場整備を計画。
・ｴﾑ・ｾﾃｯｸ相馬工場跡地の用地をH29.6.30取得。

＜凡例＞

❑立地・建設済（稼働中）
❑立地・建設予定（計画・建設中）

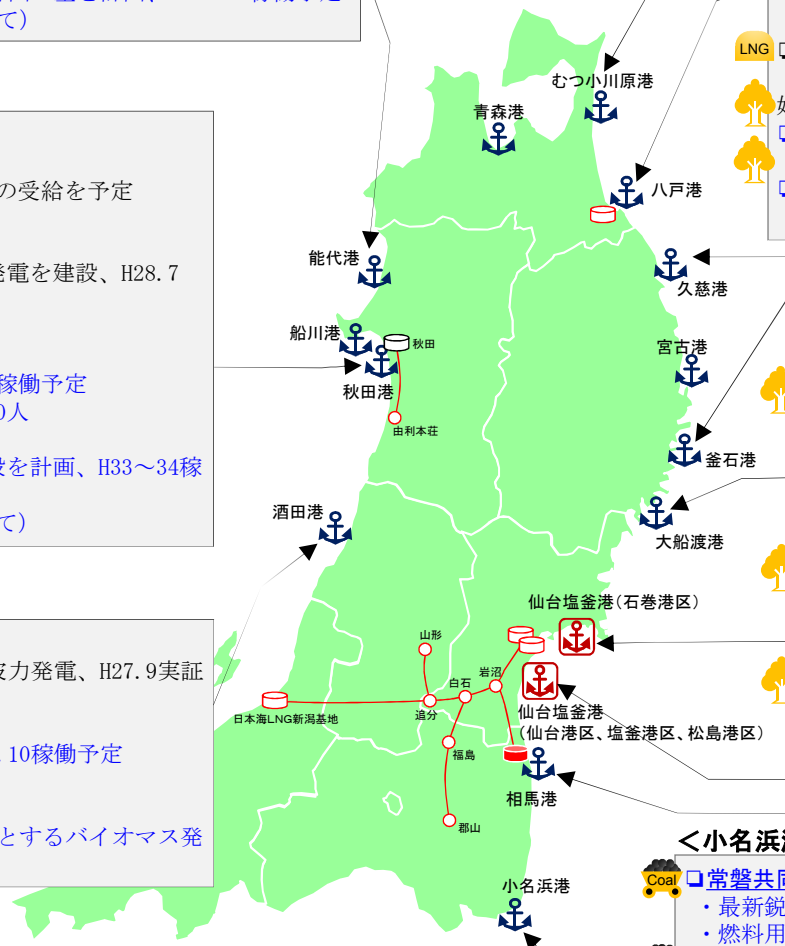
：国際拠点港湾
：重要港湾

※新聞情報等より作成

【別紙-7】港湾及び周辺における主なエネルギー関連プロジェクト

国土交通省

平成30年3月現在



＜能代港＞

Coal ❑東北電力㈱ 能代火力発電所
- 石炭火力発電3号機を建設中、H32.6稼働予定

❑秋田洋上風力発電㈱(丸紅等)
- 港湾区域内に洋上風力発電施設を計画21基を計画、H33～34稼働予定
- 投資額：約800億円（秋田港と併せて）

＜秋田港＞

LNG ❑東部ガス㈱ 秋田支社
- LNG受入基地を建設、H27.12稼働
- 八戸港LNG基地から年間2万5千トンの受給を予定
- 投資額：約60億円

❑ユナイテッドリニューアブルエナジー㈱
- パームヤシ殻等によるバイオマス発電を建設、H28.7稼働
- 投資額：約125億円、雇用：約50人

Coal ❑SPC(丸紅、関電ｴﾈﾙｷﾞｰｿﾘｭｰｼｮﾝ)
- 石炭火力発電を建設する計画、H36稼働予定
- 投資額：約3,000億円、雇用：約500人

❑秋田洋上風力発電㈱(丸紅等)
- 洋上風力発電事業者に決定13基建設を計画、H33～34稼働予定
- 投資額：約800億円（能代港と併せて）

＜酒田港＞

❑〔実証フィールド〕
- 酒田港外港地区で空気タービン式波力発電、H27.9実証実験終了

❑サミット酒田パワー㈱
- 木質バイオマス発電所を建設、H30.10稼働予定
- 投資額　約250億円

❑関西電力㈱
- 輸入したPKSや木質ペレットを燃料とするバイオマス発電所を計画

＜八戸港＞

LNG ❑JXエルエヌジーサービス㈱ 八戸LNGターミナル
- LNG輸入基地を建設、H27.4稼働
- 北東北以北への供給拠点、釧路・秋田へ内航船で供給
- 投資額：約500億円、雇用：500人

LNG ❑東北電力㈱ 八戸火力発電所
- 5号機の燃料を軽油からLNGに転換、H27.7運転開始

❑八戸ﾊﾞｲｵﾏｽ発電㈱[住友林業、住友大阪ｾﾒﾝﾄ等]
- ﾊﾞｲｵﾏｽ発電を計画、H30.4稼働予定

❑ｴﾑ・ﾋﾟｰ・ｴﾑ王子ｴｺｴﾈﾙｷﾞｰ㈱
- 石炭ﾊﾞｲｵﾏｽ混焼発電を計画、H31.7稼働予定

＜大船渡港＞

❑大船渡発電㈱
- 太平洋ｾﾒﾝﾄ大船渡工場内に、石炭ﾊﾞｲｵﾏｽ火力発電を計画、H31稼働予定
- 投資額：約235億円

＜仙台塩釜港(石巻港区)＞

❑日本製紙㈱ 石巻工場
- 石炭バイオマス混焼火力発電を建設
- H30.3運転開始
- 投資額：約500億円、雇用：約50人

❑㈱レノバ
- 木質ﾍﾟﾚｯﾄ等を燃料とするバイオマス発電所を計画、H34稼働予定

＜小名浜港＞

Coal ❑常磐共同火力発電㈱ 勿来発電所
- 最新鋭のIGCC石炭火力発電を計画、H32稼動予定
- 燃料用石炭は小名浜港から陸送で供給

Coal ❑東京電力㈱ 広野火力発電所
- 最新鋭のIGCC石炭火力発電を計画、H33稼動予定
- 燃料用石炭は小名浜港から内航船で供給
- 投資額：約3,000億円、雇用：約2,000人

❑SPC(エア・ウォーター、中国電力)
- バイオマス発電を計画、H32稼働予定

❑福島洋上風力コンソーシアム
- 経済産業省の委託事業として丸紅・三菱重工・東京大学等がコンソーシアム結成
- 浮体式洋上風力発電設備3基及び中継ステーションを建設し、実証運転中

＜むつ小川原港＞

❑むつ小川原港洋上風力開発㈱
- 港湾区域内に洋上風力発電施設を計画、H31以降着工予定
- 投資額：約580億円

＜久慈港＞

❑〔実証フィールド〕
- 東大研究所が開発する防波堤利用の波力発電装置を設置、H28.8～実証運転を開始
- 漁業施設へ試験的に電力供給

＜釜石港＞

❑〔実証フィールド〕
- H27波力、浮体式洋上風力の実証ﾌｨｰﾙﾄﾞに選定
- 東大が中心となりリニア式波力発電の研究開発事業が本格始動

＜仙台塩釜港(仙台港区)＞

LNG ❑東北電力㈱新仙台火力発電所
- 石油火力発電を廃止し、高効率なLNG火力発電にリプレース、3-1号はH27.8、3-2号はH28.7発電開始

Coal ❑仙台パワーステーション㈱
- 石炭火力発電を計画、H29.10稼働
- 投資額：約300億円

❑SPC(レノバ、住友林業等)
- 防災集団移転跡地の区画整理された蒲生北部地区に木質ﾍﾟﾚｯﾄやﾊﾟｰﾑﾔｼ殻を燃やすﾊﾞｲｵﾏｽ発電を計画、H34稼働予定

＜相馬港＞

LNG ❑石油資源開発㈱
- LNG受入基地を建設中。H30.3操業開始
- 東北地方への供給拠点、苫小牧へは内航船で供給

LNG ❑福島ガス発電㈱
- LNG基地隣接地に高効率なLNG火力発電施設を計画
- H32稼働予定
- 投資額：約1,800億円（基地＋火力併せて）

❑相馬エネルギーパーク合同会社
- 木質バイオマスも含めた火力発電を計画
- H30稼働予定
- 投資額　約400億円

＜凡例＞

- ❑立地･建設済(稼働中)
- ❑立地･建設予定(計画･建設中)

- ：国際拠点港湾
- ：重要港湾

- Coal：石炭火力発電所
- LNG：LNG基地･火力発電所
- ：バイオマス発電所
- ：風力発電所
- ：その他再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ

- ：LNG輸入基地(稼働中)
- ：LNG輸入基地(建設中)
- ：LNG2次基地
- ：主要ガスパイプライン

※新聞情報等より作成
※パイプラインは東北経済産業局資料より

※SPC･･･特別目的会社(special purpose company)